

# 日本海スケトウダラ調査速報

## =計量魚探調査（北部海域）=

北海道立総合研究機構 稚内水産試験場・中央水産試験場

- ◎北部海域のスケトウダラの分布量は昨年より約1割増.
- ◎主群は、武蔵堆西側、小樽堆海域に分布.
- ◎沖側の分布の主体は4歳魚(2006年級群;35~40cm)であり、北海道側の陸棚には、0,1歳魚(2010,2009年級群)の稚幼魚が分布.

### 1. 調査海域と期間

2010年8月24日から8月28日にかけて雄冬沖～武蔵堆周辺海域において、試験調査船 北洋丸に搭載された計量魚群探知機 EK60 および着底トロールを用いてスケトウダラの分布調査を行いました。

### 2. スケトウダラ魚群の分布【昨年と同程度】

計量魚群探知機によって得られた、1マイル毎に算出した魚探反応：NASC<sup>注1)</sup>値をもとに、調査海域におけるスケトウダラの分布図を図1に示しました。

今年の調査では昨年と同様に武蔵堆西側、小樽堆海域で比較的高い反応が認められました。調査海域全体（雄冬沖～武蔵堆周辺海域）の反応量を比較すると、今年は2007年の約1.3倍、昨年2009年の1.1倍と昨年よりやや増加しました。注目の2006年級群（4歳）は、昨年と同様に、武蔵堆の西側や小樽堆周辺といった深い海域に分布していると思われま

### 3. 漁獲されたスケトウダラのサイズ

4地点でのトロール調査結果を図2に示しました。武蔵堆西側の沖の海域では、尾叉長35~40cmの4歳（2006年級群）と思われるスケトウダラが多く漁獲されました。また、北海道側の大陸棚斜面付近には、0,1歳魚（2010,2009年級群）といった稚幼魚が多く分布していました。

### 4. 水温環境【昨年よりも表層では2~5℃高く、底水温もやや高め】

トロール調査点で海洋観測を実施しました（図3）。表層水温は、22.5~24.5℃と昨年と比べて2~5℃も高い状況です。折込根周辺では、水深100mで8.1℃、200mで5.8℃で、海底付近の水温が昨年より3℃高くなりました。武蔵堆西側では水深100mで6.1℃、200mで3.3℃と昨年より1℃ほど高くなりました。留萌沖では、表層では高く、水深100m以深では昨年と同程度の水温でした。

### 5. 魚探画像

図4に主な調査ラインの魚探画像（エコーグラム）を掲載しました。Cライン（N44度45分）の武蔵堆西側では水深250~300mの海底付近に4歳魚と推定される魚群が、Fライン（N44度）でも小樽堆周辺に水深300mの中層に分布する魚群が観察されました。北海道側の陸棚斜面上には、魚探反応は少なく、主に未成魚が分布しているものと推察されます。

注1) NASC：海底1マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表し、魚群分布量の指標となる。

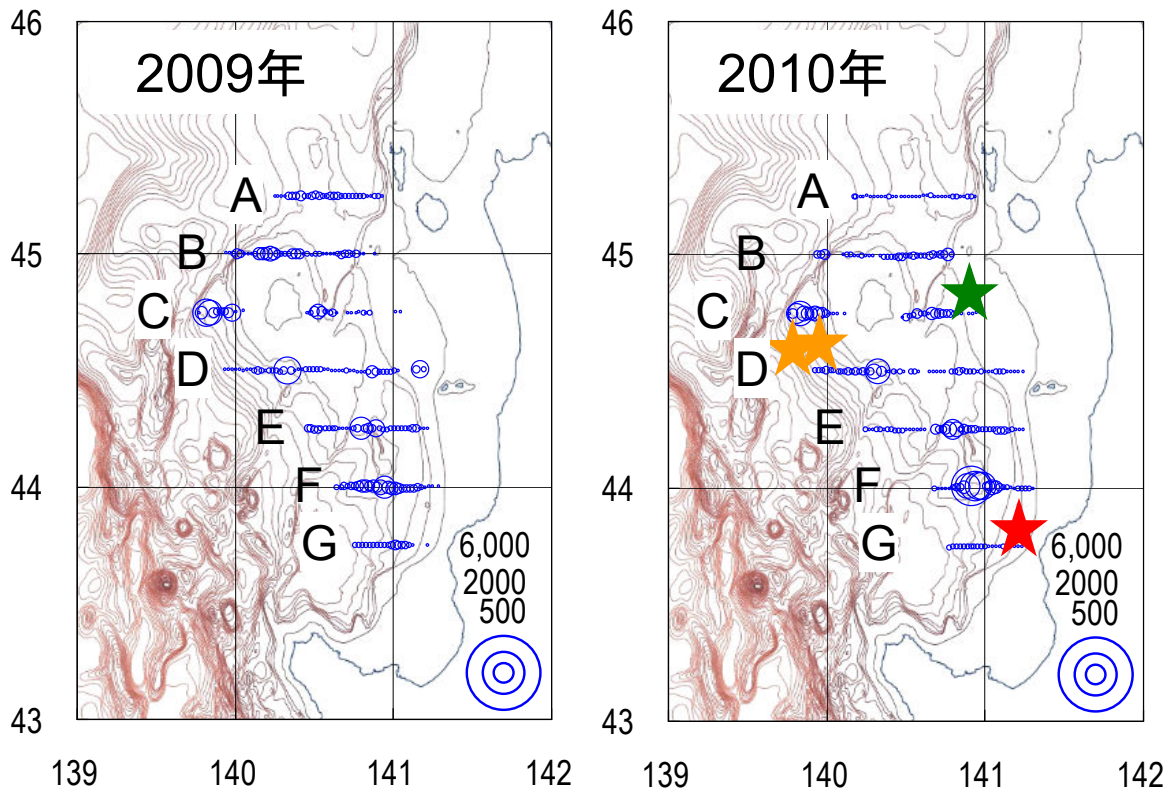


図1 スケトウダラの魚群反応量分布(NASC(m<sup>2</sup>/nm<sup>2</sup>))

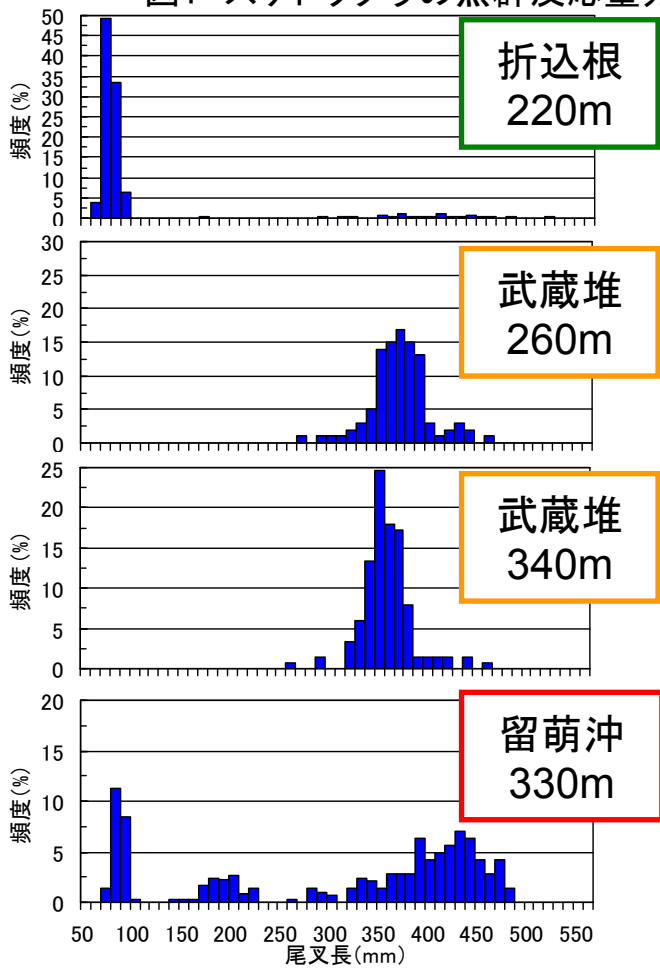


図2 着底トロール網によるスケトウダラのサイズ組成

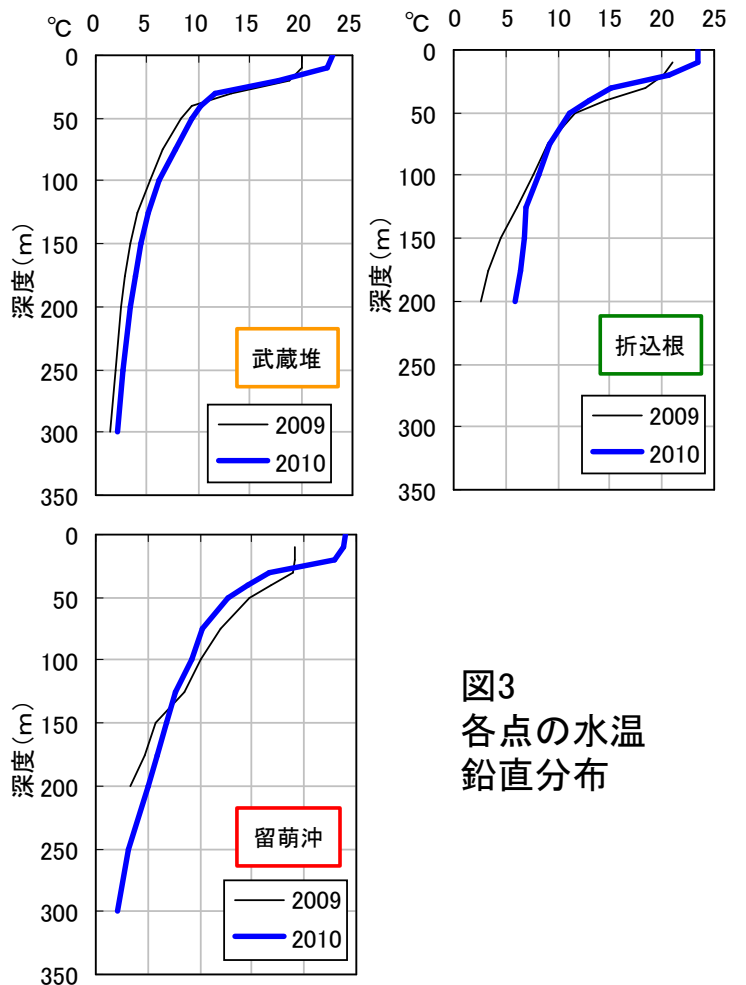
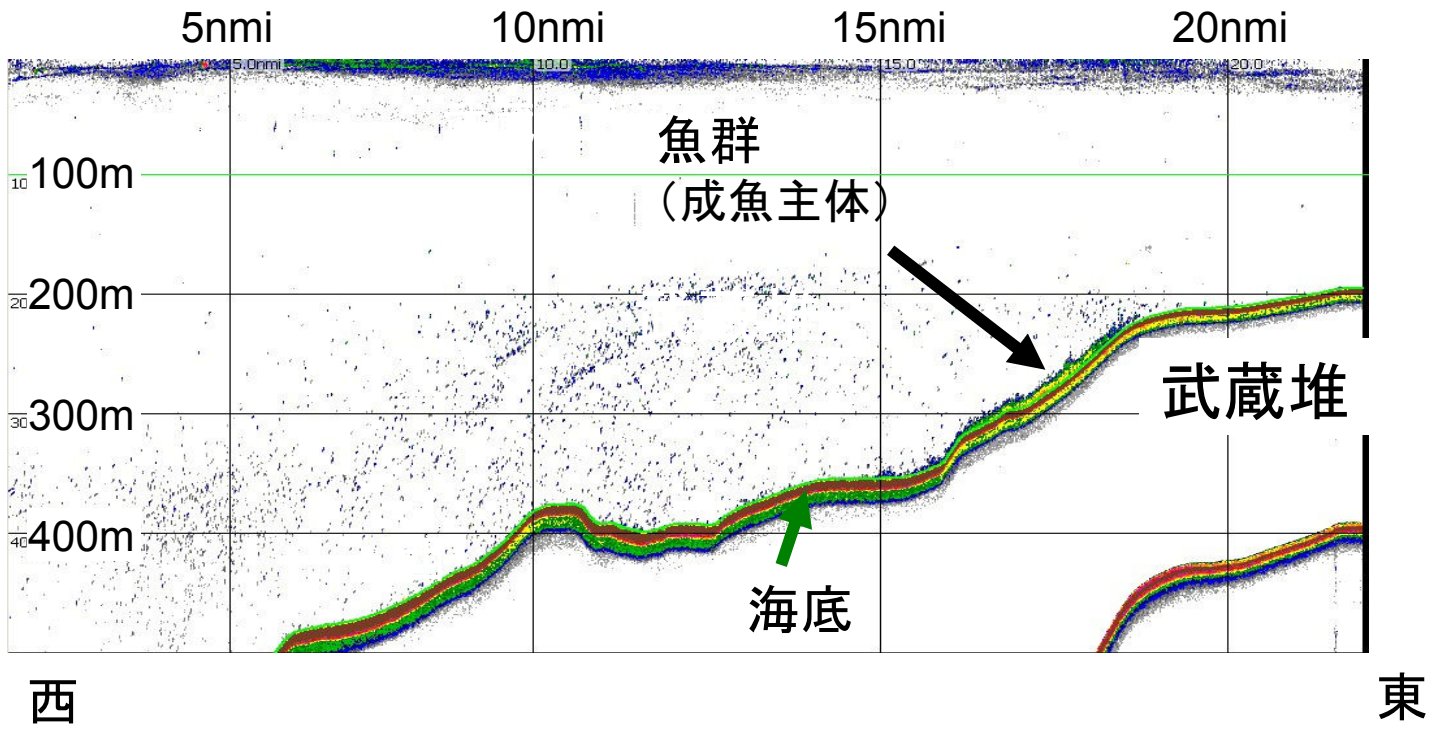


図3 各点の水温鉛直分布

C(N44度45分) 武蔵堆西側 斜面



F(N44度) 小樽堆南部

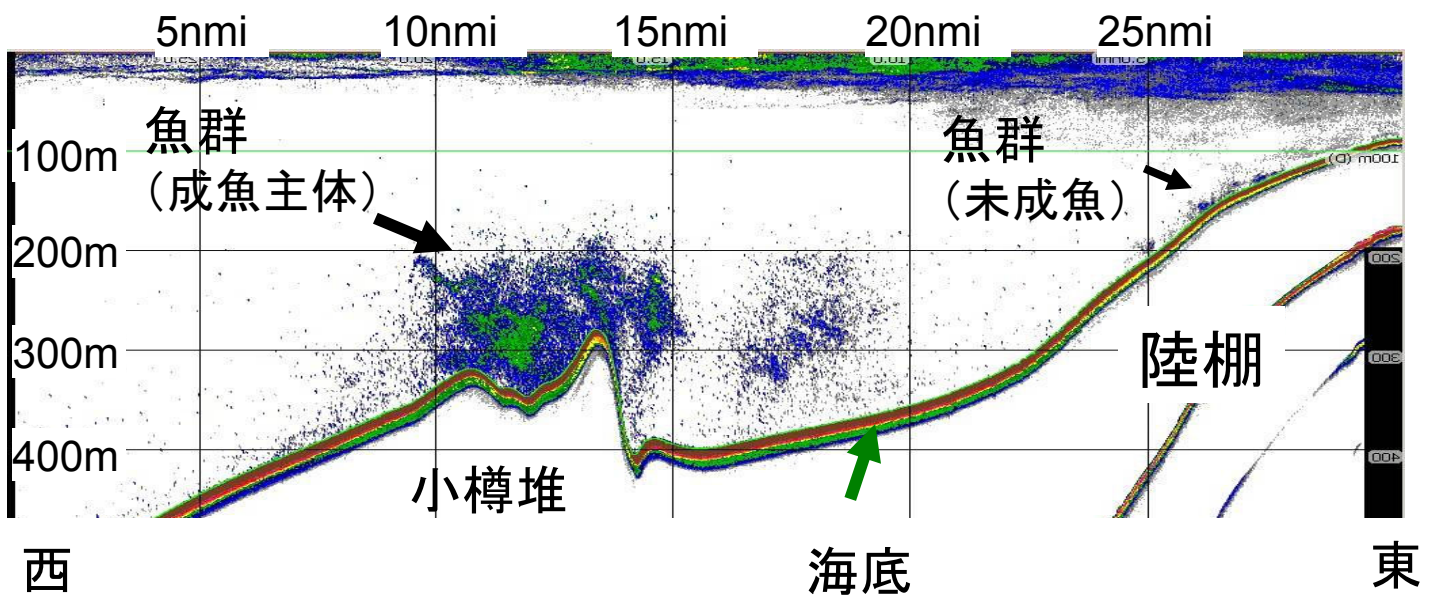


図4 武蔵堆周辺および小樽堆におけるスケトウダラの魚探画像(エコーグラム)